

# 準備と協力で困難を乗り越え、広く、使いやすく生まれ変わったと、みんなに喜ばれるトイレ。



新しく生まれ変わった女性用トイレ。「扉を外開きにするスペースがない。内開きにすると患者さんの安全が確保できない。かといって折戸にするとお年寄りの方は使い方がわからない。そんな数々の問題を、このアール型スライドドアが解決してくれました」(廣瀬院長先生のコメントより)

1904年の創立以来、地域医療を見つめ続け、その基幹として働き続けている大津赤十字病院。その病棟を中心とした1号棟(入院病棟)のトイレ改修が、2012年4月末より、順次行われました。患者さんに、工事期間中に使えるトイレを明確に伝えながら、できるだけ短い期間でスムーズに進行。アール型のドアがスライドするトイレブースを採用し、和式から洋式便器への切り替えなどが行われました。同一の空間がきれいに使いやすく生まれ変わったと、患者さんにもスタッフにもたいへん好評です。

## 快適で安全・安心のあるトイレブースに改修。

壁を壊さず、元のスペースはそのままに、快適・清潔・安全に使えるブースへと改修。スムーズな開閉で出入りのできる、明るいパステルカラーのアメニティ空間へと生まれ変わりました。柔らかいフォルムで圧迫感がなく、点滴患者さんも使いやすいなどのメリットも多い、画期的な改善になっています。



10階建てのいちばん高い建物が、今回改修を行った1号棟である。

### 【大津赤十字病院 1号棟トイレ改修工事】

- 改修年月/2012年4月~10月
- 所在地/滋賀県大津市長等1-1-35
- 施主/大津赤十字病院
- 施工/須賀工業株式会社



工事中の廊下。スピーディーな工事のため、使えない期間はごくわずかである。



工事期間やどのトイレをいつ使えるかが、わかりやすく貼り紙で明示されている。



視線が下のほうへ行く眼科の患者さんでもわかるように誘導が工夫されている。



工事中のトイレ内部。床も新しく張り替えたが、壁面はそのまま残している。

## Voice 院長先生からの声

### 未来の病院のために、インフラを整備しました。



大津赤十字病院 院長  
廣瀬邦彦さん

入院病棟を新築したのは平成2年で、22年が経過しています。私は、病院の建物の耐久性は35～40年ほどと考えていますから、20年だと折り返し地点。そこで、インフラをやり直さなければと考えました。病院全体を考え、院内保育所を移動して新しい立体駐車場を整備したり、病棟の配管の取り替えも行いました。トイレについては、今の住まいでは洋式が多いことや、お年寄りの方が使うには洋式のほうが良いだろうと考えました。入院患者さんへのアンケートでも、圧倒的に

洋式の希望が多かったんです。そこで今回、洋式化をメインとする工事に踏み切りました。入院患者さんを減らさずに、1フロアに2つのグループ機能があってそれぞれにトイレがあることを利用し、片方ずつ改修を行い、工事中はフロア内のもう片方を使ってもらうようにしました。男性と女性のトイレを交互に工事することで大移動を回避。ブースの扉を開き戸にすると男性用トイレでは小用に当たってしまうという問題も、画期的なアール型のドアの採用で解決することができました。

## Voice 看護師長さんからの声

### 科の垣根を越え、みんなで協力して乗り切りました。



大津赤十字病院  
看護師長  
塩成子さん

消化器科では下剤を使うため、和式便器の時は汚れも多かったのですが、今はきれい、清掃スタッフも喜んでいます。消化器科の患者さんはトイレの我慢がたいへんなこともあり、例えば女性用トイレの改修時には、入院されて来られる女性患者さんの中で、トイレ使用度の高い方は、他の病棟に入院していただくなど、診療科の垣根を越えてのローテーションで協力して乗り切りました。点滴はもちろん、シルバーカーも入る広さなのはうれしいですね。当初は工事に不安もありましたが、大きなトラブルもありませんでした。

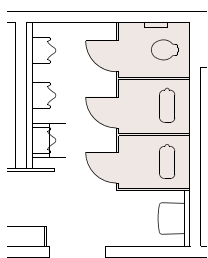


床も湿式から乾式に変え、段差が解消されてバリアフリーに。湿式の時は、水で滑ってしまうことが転倒の原因にもなっていた。

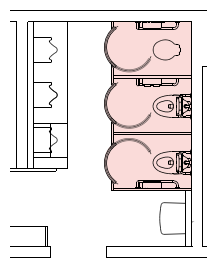


L型手すりで安全を確保。使用状況がわかりやすいように、赤と青の大きなマークで表示。

Before



After



## Voice 事務部の方々からの声

### 断水・音・においなどの諸問題を解決しながらの大工事でした。



大津赤十字病院  
事務部長  
永福勝之さん



事務部副部長 兼  
総務課長事務取扱  
辻勝さん



事務部 施設課長 兼  
消防防災係長事務取扱  
富江武司さん

2011年の1月から、ワーキンググループでトイレの改修について十分に議論し、準備を行いました。日本赤十字社の大阪府支部まで、3人でブースのドアの視察にも行きましたね。和式から洋式に変える工事では、洋式だと便器が大きいので

すから向きを変え、広く使えるようにしました。断水の時間や音・においの抑制など、多くの問題を解決しながらの大工事でしたね。困難を乗り越え、患者さんの療養環境を改善しようと、スタッフが協力してくれたことが大きかったです。

## Voice 工事担当の方からの声

### 綿密なスケジュールで工事しました。



須賀工業株式会社  
京都支店 工事部 主管  
前田卓さん

縦の4フロアごとを1度に工事する方法で、効率よく順番に進めました。「工事中でも、奥の洋式トイレは夜には必ず使えるようにしてください」など、患者さんのためのご要望もありましたから、工程を綿密に調整して対応できるようにしましたね。